

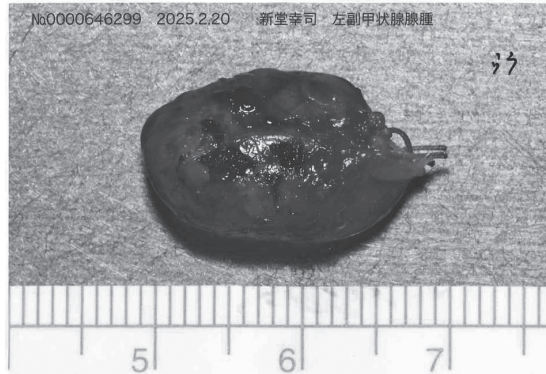
巻頭エッセイ

『一般財団法人民事法務協会』の皆様への近況報告と、

敬愛するY先生へのお礼



一般財団法人民事法務協会顧問 新堂 幸司



敬愛するお医者さん Y 先生への御礼を兼ねて、近況報告を申し上げます。

のっけに、何とも妙な写真をお目にかけ、恐縮です。

今年の2月19日から、21日にかけて、東大病院の甲状腺・副甲状腺疾患の診断と治療及び上部消化管外科のお医者さん Y 先生の執刀で、副甲状腺上皮小体の撤去手術を受けました。その撤去物の写真です。この極小物は、顎下の左右の喉元に2つずつ計4つある器官で、骨のためにカルシウムを産生するホルモンを供給するもの、だそうです。そして、普通は、どれも、大きさ

も形も米粒様のものですが、私の場合、左の1つが2センチほどにまでに異常に膨張し、機能障害をもたらしている、という診断。で、これを除去する手術を受けました。写真は、その除去物を撮ったものです。

現在、私は、93歳と11カ月になります。が、パートナーの話によりますと、90歳を過ぎたころから、情緒不安定になったそう。で、彼女の日常の小言に対して急に大声で怒ったり、喚いたりするようになったといいます。抑制が効かなくなったと、われながら感じることも多くなったと思っていました。そんな折りに、半年ごとに健康診

断を受けているお医者さん M 先生から、カルシウムの調節がおかしいよだとの診断を受け、東大病院の Y 先生を紹介された次第でした。

で、Y 先生の精密検査を受けましたところ、直ちにこの異物の除去手術の運びとなりました。顎下左右の首根っこを、横に 10cm ほど切開して、この極大化した異物を撤去するというお話で、一瞬たじろぎました。生まれつき免疫力に恵まれ、風邪を引くことさえ経験したことがない私にとっては、まさに一大事で、仰天しました。しかし幸いなことに、Y 先生は、この種の手術については、日本でも名だたる名手と評判の高い方（1 年を通じ、毎週 1 日は 3 人の患者さんに同種の手術をされているタフな先生でもある）と伺い、ここはお任せする以外にないと、観念した次第でした。そして、手術そのものは、眠っている間に行われ、あっという間に済んだという印象しかありません。傷跡の痛みも、早々なくなりました。

がしかし、その手術の効果たるや、ものすごいとしか言いようがありません。

それまで、なんか、もやもやしていた気分がすっきりし、自分でもびっくりするほど、元気になりました。食欲も旺盛になるわ、酒も楽しめるわで、やる気満々の体調となったのです。ほぼ停止していた研究活動も、やり直そうという意欲さえ生まれました。最近の学会の動きをフォローして、新しい論文を書いてみよう、学会のめばしい著作を眼の前に積み上げ、「全部読破するぞ」と意気込んでいるような次第です。

今や、まさに Y 先生サマサマのハイ状態です。

以上、「一般財団法人民事法務協会」の皆様へ、近況報告を申し上げますとともに、Y 先生に、なんと感謝申し上げるべきか、言葉も見つかりません。この場をお借りし、あらためて、Y 先生に、厚く御礼申し上げますと思います。本当に有難うございました。